



Creating future lifestyles
through sustainable business

NIKKE
Group



ニッケグループ統合報告書
2023

Creating future lifestyles through sustainable business

「みらい生活創造企業」を目指して

私たちニッケグループは1896年の創業以来、“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”を理念とし、持続可能な成長に向けて情熱と誇りをもって新しいビジネスに挑戦する姿勢を貫いてきました。

変化の激しい経営環境の中、2016年1月には、2026年までの10年間のニッケグループの目指す方向性、企業像、経営戦略を再構築し、中長期的な企業価値の向上をビジョンとする

「ニッケグループRN(リニューアル・ニッケ)130ビジョン」(以下「RN130ビジョン」)を策定しています。

私たちは、次の時代にも求められる「みらい生活創造企業」を目指して、今後もサステナブル経営を推進します。

CONTENTS

05～13 第1章 Cover Story

- 05～12 CEOメッセージ
13 RN130ビジョン第2次中期経営計画の進捗報告

14～29 第2章 Review of Business

- 15～18 価値創造ストーリー
19～26 事業紹介
27～29 CFOメッセージ

30～44 第3章 ESG in Action

- 31～34 Environment
35～38 Social
39～44 Governance

45～54 第4章 Data

- 45～48 財務データ
49～50 データで見る非財務(ESG)の状況
51～52 沿革
53～54 事業拠点 / 会社概要

編集方針 本報告書は、株主・投資家の皆様をはじめとしたあらゆるステークホルダーの方々に、経営実績や戦略などの財務情報に加え、環境・社会・ガバナンスの非財務情報の両面について、ニッケグループをご理解いただけるよう「統合報告書」として編集しています。

報告対象期間 2022年度(2021年12月1日～2022年11月30日)

報告対象組織 ニッケグループとしての取り組みと各社の活動を報告します。
<環境報告の対象範囲>

●ニッケ製造事業所:2カ所【印南工場、岐阜工場】●オフィス:6カ所
●国内グループ会社:8社【アンピック(株)、(株)ゴーセン、金屋ニット(株)、尾州ウール(株)、大成毛織(株)、(株)ツキネコ、(株)ニッケ起ダイニング、ホクレン(株)】●ショッピングセンター:2カ所【ニッケパークタウン、ニッケコルトンプラザ】

ご注意 集計対象会社などに準じて、報告対象年度以前のデータを見直し修正していますので、前年度報告のデータと異なる数値があります。また、四捨五入によって、前年度報告の数字と異なる場合があります。

免責事項 本報告書は、ニッケおよびニッケグループの将来に関する見通しも記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、将来の事業活動の結果とは異なったものになる可能性があります。

サステナブル経営の推進 ニッケグループが目指す 「みらい生活創造企業」に向けて

今日、気候変動やコロナ禍、地政学的リスクの高まりなど全地球規模の社会的課題が次々と現れる中で、企業はどのように社会的課題の解決に貢献し、持続的な成長を遂げるかを問われています。私たちニッケグループは、過去のさまざまな社会・経済の変動を、“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”という企業理念に従い乗り越えてきました。祖業である繊維事業から現在の4事業部体制に事業構造を変革することができ、また、統廃合した生産拠点を商業施設やスポーツ施設、介護施設へと生まれ変わらせたのは、「みらい生活創造企業」を目指すという思いからです。

ニッケグループは、2030年度にCO₂排出量50%削減※を目標に、これまでと同様、不断のチャレンジにより、持続可能で豊かな社会の実現に貢献していきます。

※2018年度対比

2022年11月期の3つの注目ポイント

1 RN130ビジョン第2次中期経営計画2年目を終えて 》 順調に進捗 過去最高の営業利益を更新

ニッケグループでは、創業から130年目となる2026年に向けた中長期ビジョン「ニッケグループRN(リニューアル・ニッケ)130ビジョン」を策定し、ありたい姿に向かって邁進しています。第2次中期経営計画2年目(2022年11月期)は、前期比で「増収増益(売上高2.3%増、経常利益19.7%増)」「過去最高の営業利益(8.1%増)」を達成しました。 [詳細はP.13](#)

単位:百万円

| | 2021年11月期(初年度) | | 2022年11月期(2年目) | | 2023年11月期(最終年度) | |
|-----------------|----------------|---------|----------------|---------|-----------------|---------|
| | 中期計画 | 実績 | 中期計画 | 実績 | 中期計画 | 業績予想* |
| 売上高 | 107,000 | 106,619 | 114,000 | 109,048 | 127,000 | 121,000 |
| 営業利益 | 8,600 | 9,900 | 9,500 | 10,707 | 11,500 | 11,000 |
| 営業利益率 | 8.0% | 9.3% | 8.3% | 9.8% | 9.1% | 9.1% |
| 経常利益 | 8,200 | 9,784 | 9,700 | 11,715 | 11,700 | 11,400 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 4,000 | 8,308 | 6,500 | 7,283 | 7,800 | 7,300 |
| ROE | - | 8.4% | - | 7.0% | 7.0%以上 | 7.0%以上 |

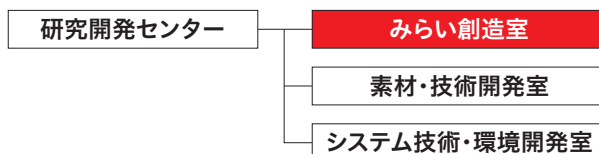
※2023年1月発表

2 RN130ビジョンの実現に向けて 》 遠い未来の視点を 長期的視点で事業の挑戦・変革を促進する取り組み

ニッケグループでは、魅力的な事業を創造し、持続可能な社会の実現と企業の永続的な成長を目指すためには『人財が最も重要な経営資本である』という認識のもと、「健康経営の推進」「ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み」「人財育成」を3本の柱とし、健康経営優良法人の認定取得推進、法定を大幅に上回る育児休暇制度の設置、事業の中核を担うリーダー育成のための研修制度などの施策を通じ、従業員が安心して働きながら能力を発揮できる職場環境の整備を推進しています。 [詳細はP.36](#)

また、遠い未来の視点から考えるアウトサイドイン発想力を高め、既存の事業領域にとらわれないイノベーションの推進役として「みらい創造室」を設置しました。潜在ニーズの探索と新技術・サービスの萌芽(シーズ)の発掘を自由に行い、ニッケグループのビジョンに整合し、かつSDGsに貢献する新規事業戦略の立案を目指します。

[詳細はP.12](#)



3 気候変動への対応 》 環境保全是経営の最優先事項 CO2排出量50%削減を目指す

ニッケグループは、かけがえのない地球環境を次世代へと引き継ぐため、環境保全是企業経営における最優先課題と位置付け、1993年には「ニッケグループ地球環境委員会」を設置するなど、早くから省エネルギーやCO₂排出量削減、廃棄物最終処分量削減などに取り組んできました。さらに2022年11月、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言への賛同を表明し、気候変動に対する取り組みに一層注力し、情報開示の拡充に継続的に取り組んでいくことを公表しています。具体的な目標として、Scope1およびScope2のCO₂排出量50%削減(基準:2018年度、目標:2030年度)を目指します。また、2050年度のカーボンニュートラル実現に向け、工場生産設備の更新などによるエネルギー使用量の削減、既存の太陽光発電設備の活用ならびに新設、グリーンエネルギーの調達拡大など、あらゆる選択肢を検討します。

[詳細はP.32](#)

